

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2011～2012年度 国際ロータリー Kalyan Banerjee (カルヤン・バナルジー) 会長テーマ

Reach within to Embrace Humanity こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 杉浦世志朗
幹事 市川裕大
会報委員長 吉岡秀記

第2762回例会プログラム

[当年度=38回目; 当月=4週目]

2012年(平成24年)5月28日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈副会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
12:45 7. 副会長挨拶
8. 小堤西池のカキツバタを守る会へ支援金贈呈
……カキツバタを守る会
としまさ
会長 野々山利維 様
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(6/4) ……
卓話「生活習慣病について」
講師 刈谷豊田総合病院
病院長 井本 正巳様
(紹介者 馬場 理好 会員)
(6/11) ……
クラブ協議会
次年度委員会別事業計画の検討

2. クラブフォーラム……………〈環境保全委員会〉

- 13:00 卓話「子供の森について」
講師 公益財団法人オイスカ
国際協力部 高田 絵美 様
(紹介者 杉山 欣輝 会員)
14. 謝辞
15. 点鐘……〈副会長〉
13:30 16. 閉会宣言

ゲ ス ト

小堤西池のカキツバタを守る会

会長 野々山利維 様

公益財団法人オイスカ 参事 村松 明 様

出 席

会員総数 91名 出席免除 27名
出席義務者+免除者の内例会出席者 82名
欠席 19名 出席率 87.80%
前々回(5/14)の修正出席率 100%

小堤西池のカキツバタを守る会へ支援金贈呈



カキツバタを守る会 会長 野々山利維 様

幹 事 報 告

- 1) この度の中松健一会員の退会により、会員数は91名になりました。
2) 6月よりロータリーレートは、1ドル=80円となります。ご寄付がよりしやすくなりました。ご寄付をお考えの方は本年度中にご奉仕をよろしく願います。
3) FAXにてご案内させて頂きましたが、元刈谷RC会員、知立RC12代会長、濱島賢祐様が昨日5月27日ご逝去されました。

岩瀬 正人



本日は、杉浦会長が例会をお休みです。私が代理を務めますので、よろしく申し上げます。

本日は「現代の若者」というテーマについて、最近感じていることについてお話したいと思います。私には23歳を筆頭に3人の大学生の息子がいますが、マスコミなどで一般的に言われていることについて、違和感を持つことがあります。

最近の若者の特徴を表す言葉としてよく使われるのが、「若者の〇〇離れ」というものです。その代表的なもの1つが車離れ・TV離れといった「消費離れ」、もう一つが「読書離れ」というフレーズです。いずれも若者に対する否定的な意味合いで使われていますが、この2つの切り口から、お話したいと思います。

まずは「消費離れ」ですが、私の息子たちも車には興味を示さないし、TVもあまり見ません。また、アパート暮らしの息子はアパートで炊いたご飯を大学へ持参して、大学の食堂でおかずだけを購入して昼食を済ませています。私の感覚では、そんなことは恥ずかしいように思うのですが、彼らには、そういうことでお金を節約することは、むしろ格好いいと受け止めているようです。

彼らは「KY世代」と呼ばれ、小中高時代から「空気が読めない」子は馬鹿にされるということを経験として持っていると言われており、豊富な選択肢が有る中で、割高で高価なものを買うことは周りからバカにされると考えているそうです。それでは、彼らは消費しないのでしょうか。

最近の若者の消費を示す一例が、いわゆる「AKB商法」というものです。AKB48の握手会では、1枚のCDを購入することで、任意のメンバーと10秒間の握手する「権利」を購入することができる。お気に入りの前田敦子や大島優子とより長く握手するために、同じCDを何枚も購入するファンも珍しくない。10秒の握手時に交わされる一瞬のコミュニケーションに、お金を支払う価値を見出している。あるいは、AKBの人気No.1を選ぶ総選挙の投票権を喜んで購入している若者の姿があります。

このように、かつての三種の神器であった「車・AV家電・海外旅行」への高額支出をしなくなったことを持って、「消費離れ」ということがもう時代にそぐわないと言えます。若者が消費しなくなったのも消費欲が減退したのではなく、消費される商品の形態が確実に変化していると思えるべきではないでしょうか。

もう1つの若者の特徴を表す言葉に「読書離れ」＝「活字離れ」というものがあります。今の若者がPC・iPhoneなどで、ネットやTwitterなどを見ている時間は大変なものです。これらのツールから彼らが読む活字の量、あるいは入手する情報量は膨大です。息子からも、facebookで500人以上の相手と交流しているという話を聞くと、彼らの情報収集力・発信力には、今の中高年世

代は到底かなわないと感じます。実際、彼ら世代は、中高年世代が知らない世の中の出来事を知っていることを、私は思い知らされたことがあります。

ご存知の方も見えるかと思いますが、昨年7月に俳優の高岡蒼甫がTwitter上で、フジTVの番組放送が韓国に傾斜していると批判する書き込みを行ったことをきっかけに、番組編成・韓流ブームに不満を持っていた層がネットでデモをよびかけ、全国で何回ものデモ行進が行われています。

昨年8月7日に、フジTV本社のあるお台場に、主催者発表で2,500人が参加、8月21日には最大の6,000人がフジTV本社前に集合してデモ行進を行っています。その後、本年3月には浅草でも同様なデモが行われた。東京だけでなく、規模は小さいものの名古屋・高松・広島・仙台でもデモ行進が行われています。

こうしたデモの事実は、日本のTV局あるいは新聞社など大手マスコミは一切報道しておらず、私も全く知りませんでした。しかしながら、息子たちは2チャンネルあるいはネットからこうした世の中の出来事の動きをフォローしているのです。

最後にまとめますと、若者の「消費離れ」「読書離れ」というフレーズに、日本の将来を悲観する必要はないのではないかと。むしろ今の若い世代が、我々の世代ではできない新しい日本社会を作っていくてくれるものと期待してよいのではないかと考えています。

クラブフォーラム

卓話「子どもの森について」

公益財団法人 オイスカ

国際協力部 高田 絵美 様



刈谷ロータリークラブ様にはタイ北部のチェンライ県における植林活動（「刈谷の森」づくり）へのご支援をはじめとしてオイスカ活動へ平素よりご協力を頂いておりますこと、まず御礼申し上げます。

本日は『子どもたちの持続可能な社会づくりへの参画支援』という視点から「子供の森」計画（Children's Forest Program：CFP）についてご紹介いたします。「子供の森」計画は子どもたちの「自然を愛する心」や「緑を大切に育てる力」を育てながら地球全体の緑化を目指すプログラムです。1991年より開始し、現在、アジア・太平洋諸国を中心に世界29の国と地域、4,534校の学校が参加しています。子どもたちは自ら苗木を植え育てることを通じて自然と人間との関わりを学び、また自然の中での環境学習を通じて自然に親しみを持ち将来にわたって自分のふるさとの自然を守り育む心と力を育てています。

地球環境問題のこれからの行く末は、大人たちの行動だけでなく、世界中で子どもたち自身が持続可能な社会づくり「ふるさとづくり」へ参画していくこと、それを

応援する体制を築くことが重要だと考えています。「子供の森」計画はこの一助となれるよう、今後も世界中にさらに活動国を増やしながら積極的に展開していきたいと考えています。